令和７年10月23日（木）文教委員会視察
◎伊勢市

１．伊勢市の概要・特色

・人口　117,563人
・世帯数　56,541世帯
・面積　208.35㎢
・予算　約607億円
・伊勢神宮を擁する日本屈指の参拝都市である。
・おかげ横丁や二見浦の夫婦岩など、歴史や自然を楽しめる観光場所が多数ある。
・赤福餅、伊勢うどん、手こね寿司など、伊勢ならではの郷土料理がある。

２．視察概要

（１）日時
令和７年10月23日（木）

（２）訪問先
伊勢市健康福祉部　福祉総合支援センター
よりそいこども家庭相談係

（３）場所
三重県伊勢市楠部町乙77番地（伊勢市健康福祉ステーション内）

（４）目的
いじめ問題への対応は、子どもの命と尊厳を守る最重要課題であり、学校だけでなく地域・家庭・行政が一体となった取組が求められている。
伊勢市では、健康福祉部に「よりそいこども家庭相談係」を設置し、教育委員会や関係機関と連携した支援体制を整備している。
本視察の目的は、伊勢市におけるいじめ防止対策の具体的な取組や相談体制の工夫を学び、今後の杉並区におけるいじめ防止施策の参考とすることである。

３．設置の経緯と背景

伊勢市では、いじめや児童虐待、不登校など、子どもを取り巻く問題が複雑化・多様化する中で、教育現場だけでは解決が困難なケースが増加していた。
このような状況を受け、市は令和４年度に健康福祉部福祉総合支援センター内に「よりそいこども家庭相談係」を設置した。
福祉・教育・医療・警察・地域団体が連携し、子どもと家庭を包括的に支援する体制を構築した。
特に、いじめ被害を受けた子どもが「安心して声を上げられる」「支援が継続する」ことを目指し、早期発見・初期対応・継続支援を一貫して行う仕組みを整えている。

４．取組の主なポイント

（１）多様な相談受付とアプリ導入「STANDBY」

従来の電話・来所・メール相談に加え、令和６年度からは、相談アプリ「STANDBY」を導入。
スマートフォンから匿名で相談できるようにし、24 時間受付体制を実現した。

（２）被害者に寄り添った支援体制

相談を受けた際は、まず子どもの安全確保と心理的ケアを最優先。
教育委員会や学校と連携して迅速な初動対応を行い、ケース会議で関係機関が情報を共有。
心理士・ソーシャルワーカー・スクールカウンセラーがチームとして関わり、家庭や学校生活の回復まで継続支援を行っている。
また、加害・傍観の子どもへの支援も行い、再発防止に努めている。

（３）職員研修と関係機関連携の強化

いじめ対応の質を高めるため、関係職員・教職員を対象にした研修を定期的に実施している。
事例検討会やロールプレイ研修を通じて、初期対応の在り方、関係機関連携の手法、被害児童への支援技術などを学んでいる。

（4）市民への啓発と教育的アプローチ

市民・保護者に対しては、「いじめを見逃さない社会づくり」を目的に広報や講演会を実施。
また、学校では「いじめ防止ゲーミフィケーションワークショップ」を開催し、子どもたちが体験的に「共感」「多様性」「助け合い」を学ぶ教育活動を推進している。
この取組は、ゲーム的要素を取り入れることで、児童生徒の主体的な学びを促進し、いじめの予防的効果を上げている。

5．大切にしている理念

よりそいこども家庭相談係の取組の根底には、

「どの子にも安心できる居場所を」
という理念がある。

被害者の視点に立ち、心の回復を最優先に支援すること、そして、支援が一時的で終わらず、継続して子どもと家庭に寄り添う仕組みを整えていることが、伊勢市の大きな特徴である。
行政と教育が連携することで、支援の“隙間”を生まない体制が確立されている。

6．伊勢市健康福祉ステーションの概要

伊勢市健康福祉ステーションは、市民の健康と福祉を総合的に支援する拠点として設立された。
館内には、以下の部署が集約されている。

- 健康づくり課
- 高齢者支援課
- 障がい福祉課
- 福祉総合支援センター（よりそいこども家庭相談係含む）

それぞれの専門職が連携し、ライフステージに応じた支援をワンストップで提供している。
特に「よりそいこども家庭相談係」は、児童福祉・教育・心理支援を結びつけるハブ機能を担い、地域に根ざした子ども支援の中核的役割を果たしている。

７．まとめ・所感

伊勢市のいじめ防止対策は、

- 子どもに寄り添う姿勢
- 関係機関連携の仕組み化
- ICT を活用した相談体制
- 教育現場との実践的連携

が高いレベルで実現されており、杉並区にとっても多くの示唆を与えるものであった。

特に、アプリによる相談支援と、ゲーミフィケーションを取り入れた啓発活動は、今後の新しい取組モデルとして大いに参考になった。
杉並区でも、こうした「子どもの声を受け止める新たな仕組み」と「地域全体で支える体制」の構築を進めていくことが大切だと感じた。